



2012年11月1日

「ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～」2012年度報告書No.2

宮城・福島・岩手被災クラブ訪問報告書

国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン
ガバナー 遠藤 妙子



初秋とはいえ、例年にないほど残暑の厳しい9月11～13日にかけて、理事会とスポンサーシップ委員会・メンバーシップ委員会・広報委員会（写真撮影・編集）の7名は、“2012年度ソロプチミスト絆プロジェクト”の支援生募集と“被災地の女性と女児の支援”の目的のため、被災地クラブ訪問を実施いたしました。

今回の訪問では気仙沼会場を皮切りに最終の仙台会場まで、7会場19クラブ179名の会員の方々との交流会を実施し、今まで訪問できなかった南相馬市も訪れることができました。



2012年9月11日（火）気仙沼会場—プラザホテル

出席クラブ：SI 気仙沼 13名・SI 大船渡 12名



最初の気仙沼会場では、東日本大震災から1年半が経過した奇しくも9月11日にお伺いすることになり、大震災によって失われた尊い御霊に慎んで黙祷を捧げたのち交流会を始めました。

遠藤妙子ガバナー：気仙沼と大船渡を訪れたのは久しぶりですが、以前よりも街全体が明るくなった印象です。被災された方々の地域復興への懸命の努力と手応えを感じました。

☆SI 気仙沼：自身の生活を立て直しつつ出来ることから始めようと「女性に機会を与える賞」の候補者を探しています。

☆SI 大船渡：8月に災害援助金に「コミュニティ憩いのオアシス」を申請し今回はSI 気仙沼と合同で「ガガニココミュニティ」を申請予定しています。

2012年9月11日（火）石巻会場—石巻グランドホテル

出席クラブ：SI 石巻 13名・SI 石巻サンファン 16名



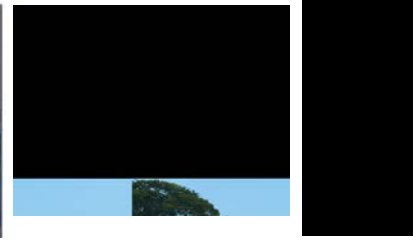
絆プロジェクト支援生

遠藤妙子ガバナー：「絆プロジェクト」は4月から63名の支援が始まり、今年度は80名の支援生を公募いたします。「絆プロジェクト」は今年度で終了の予定で、今後は「女性と女児の支援」に力を注ぎたいと思います。連盟の「女性と女児のためのソロプチミスト災害援助金」へ申請をお願いいたします。

☆SI 石巻：会員を6名増やす事ができました。全国から支援を寄せられ助けられたことで、地域の方々の中にボランティアについて考える意識が強くなったと思います。会員の心をひとつにしてこれからも支援を続けてゆきたいと思えます。

☆SI 石巻サンファン：サンファンでも会員が増えました。ソロプチミストの組織力と温かい支援に励まされました。できる範囲でチャリティーコンサートを開催できました。

2012年9月12日（水）原町会場—ラフィーンヌ
出席クラブ：S I原町6名・SI相馬9名



理事会とSI原町会員はマイクロバスで警戒地区の小高地区、原町地区で最も津波の被害が大きかった萱浜地区、36名が亡くなった特老ヨッシーランド、南相馬市の現状を視察しました。季節外れの鯉のぼりが風になびいていました。津波で奥様とお子様を亡くされた方が、波にのみ込まれすっかり姿を変えてしまったふるさとの目印にと自宅跡に立てていたものでした。私達は思わず手を合わせ祈りを捧げました。

☆SI原町： 南相馬市は温暖な気候と自然に恵まれ人情味あふれた都市で、報徳仕法による復興の歴史を持つ町でもあります。しかし原発事故後1週間で7万人の人口が6,000人にまで減少しました。原発から20キロ圏内ははまだライフラインが途切れ、1日も早い復旧復興を願います。昨年は休会状態でした。地元に残った会員だけでメールを配り、食事会をしました。今期7月からは活動を開始し講演会も企画します。収益は子供達のためにと 생각합니다。

☆SI相馬： 被災当初は例会ができず、月1回食事会をしていました。今年5月、由紀さおりさんを招いてチャリティーショーを開催。「青少年育成会」に寄付しました。絆プロジェクトで2名支援していただいております。今期からきちんとした形で例会を始めました。退会を考えた会員もおりましたが、これほど支援していただいたら立ち直ってお返ししなければと思うようになったようです。

2012年9月12日（水）福島会場—福島ビューホテル
出席クラブ：SI福島12名



☆SI福島： 福島は被災3県のなかでも「放射能」という特殊な問題を抱えています。復旧復興の先が見えない状態です。除染作業も進まず、いまだに仮設住宅での生活を余儀なくされ苦勞している人々が大勢います。福島県が背負っている放射能の問題と置かれている現状をご理解いただきたいと思ひます。ただ、そのような状態であっても将来ある子供達が「安心安全な暮らし」を維持出来るよう願って今後も活動してゆきたい。

SI 福島からの要望:応募する支援生の基準を福島の現状に沿ったように柔軟に見直して欲しい。放射能問題で家族が離散して避難生活を送る子供達、両親ともに元気でいても職を失って生活が立ちいかない人も少なくない。震災による遺児孤児で中学3年生でという基準に合わない子供さんたちも沢山います。ぜひ助成の手を差し伸べていただきたい。

2012年9月12日(水) いわき会場-小名浜オーシャンホテル
出席クラブ: SI いわき 6名・SI いわき中央 11名・SI マリンいわき 13名



原発問題に揺れる地域でもあり「絆プロジェクト」の条件からもれてしまう子供達を支援するために「絆プロジェクト」の基準を広げられないかの質問が相次ぎました。

遠藤妙子ガバナー: 皆様のクラブで遺児孤児の中学3年生の方をご存知の方は、是非ご紹介をお願いいたします。SI マリンいわきより「女性と女兒のためのソロプチミスト災害援助金」の申請が出ております。SI いわきと SI いわき中央も是非申請をお願いいたします。

- ☆SI いわき: 「災害援助金」の申請を今は考えていませんが検討してみます。
- ☆SI いわき中央: 教育委員会や学校を通して絆プロジェクトの該当者を探しているところです。
- ☆SI マリンいわき: いわき市には公立高校14校、私立高校3校があります。各学校に「絆プロジェクト」の用紙を届けると「男の子はだめですか」と質問されました。「絆プロジェクト」応募要項は市内の中学校を含む44校に教育委員会を通じて配布していただくことになっています。「災害援助金」で子育て中の母親の支援を考えています。放射能の被害に不安を持っています。既に実施された検査では甲状腺の要再検査が36%、検査の順番が回ってこないことでストレスを抱え、その不安を子供にぶつけるDVの例もあり、子供を守ろうとする母親に希望を与えたいのです。

2012年9月12日(水) 郡山会場-郡山ビューホテル
出席クラブ: SI 会津 4名・SI 喜多方 5名・SI 郡山 6名・SI 須賀川 14名・SI 田村 13名



原発の風評被害が抱える大きな問題点があり、大変厳しく切実な現状が報告されました。しかし、そこを乗り越えて前に進むソロプチミストの強さも実感いたしました。

- ☆SI 会 津： 風評被害があり、出産後の母子を助ける癒しの部屋の無料相談を継続中です。
- ☆SI 喜多方： 原発被害は少ないが、主要事業の観光が低迷しています。学校から離れたくない子どもを支援している女性がいるので、ソロプチミストとしても協力を考えています。
- ☆SI 郡 山： 被害が余り知られていませんが、全半壊、要修繕など大変です。例会で子供を支援するテーブル募金を行っています。
- ☆SI 須賀川： 絆プロジェクトの支援生が5名います。しかし震災以外の困窮児も支援したい。今こそ地域に密着した活動が必要であると考えています。
- ☆SI 田 村： 農業従事者が多い地区ですが、原発の風評被害に苦しんでいます。国の基準以上に厳しい100%安全な作物を出荷していることを発信したい。現在まで会員維持に努めてきたので、今期は少しずつ活動を再開したいと思います。

9月13日(木) 仙台会場-ホテルベルエア仙台

出席クラブ：SI 宮城8名・SI 仙台7名・SI 仙台アイリス6名・SI 仙台青葉5名



各クラブから活動報告と新入会員紹介がありました

仙台4クラブ（SI 仙台、SI 宮城、SI 仙台青葉、SI 仙台アイリス）は昨年に引き続き合同で「絆プロジェクト」に取り組んでおります。支援対象者発掘のためリーフレットを持参し、国際ソロプチミストの組織と活動を説明。様々な問題に直面しながら10数名の該当者を見つけました。申請の規定が面倒すぎ、もっと簡単に遺児孤児の証明ができればよいのではという意見がありました。

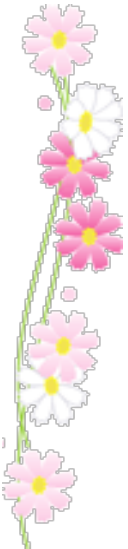
- ☆SI 宮城： 「夢を生きるアートコンテスト」参加作品を書いていただくために絵画教室を開催して、作品展を地域で実施しています。今期も是非続けたいと思います。
- ☆SI 仙台： 今期もソロプチミスト災害援助金の申請に取り組みたいと考えています。
- ☆SI 仙台アイリス： 一人の退会者も出さないように、会員維持に努めています。
- ☆SI 仙台青葉： 参加したい、来て良かった、と思う例会作りを心掛けています。移動例会に障害者運営のレストランを利用しました。



～被災地クラブ訪問を終えて～

ハードなスケジュールと悪天候、放射能汚染の影響で迂回を余儀なくされ、各会場で待っていて下さった会員の方々に多大なご迷惑をおかけしましたが、すべての会場で温かく出迎えていただき感謝申し上げます。“ソロプチミスト絆プロジェクト～Heart to Heart～”の意義を再確認することができ、また期待の大きさも感じました。紙面の都合で記載できませんでしたが、星川スポンサーシップ委員長からは、無理なく取り組めるペットボトルキャップや古切手の回収活動の説明、岩崎メンバーシップ委員長から被災地復興のため会員維持のお願いと会員増強のお礼が述べられました。

今回の訪問でお寄せいただいた被災地クラブのご意見・ご要望を真摯に受け止め日本北リジョン理事会では今後の支援活動を考えて参ります。被災地訪問実施にご理解を賜りました、東・中央・西・南の4リジョンの皆様にも心よりお礼申し上げます。



編集後記

会員一同、1日も早い被災地の復興をお祈りいたします。

- <2012-2014 年期 理事会>
遠藤妙子／潮まどか／高田テル子／金安潤子／國本京子
- <メンバーシップ委員長>
岩崎芳子
- <スポンサーシップ委員長>
星川恵美
- <広報委員会>
佐々木淳子／堀五十鈴／板倉恵子／鈴木千枝子

【発行者】 国際ソロプチミストアメリカ日本北リジョン ガバナー 遠藤妙子

【事務局】 〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目8-1 北7条ヨシヤビル3F
日本北リジョン事務局

TEL (011)756-8161 FAX (011)756-8162

E-Mail : sia-jkita@world.odn.ne.jp ホームページ : <http://www.navi-kita.net/sia-kita/>